

2025 年 9 月 30 日

各 位

碧海信用金庫

株式会社鈴木鉄筋との
「へきしんサステナビリティ・リンク・ローン」の契約締結について

碧海信用金庫（理事長：深谷 誠）は、株式会社鈴木鉄筋（代表取締役：鈴木 和也）と、「へきしんサステナビリティ・リンク・ローン（以下：へきしんＳＬＬ）」の契約を締結いたしましたので、お知らせします。

本商品を通じてお客さまの脱炭素経営に係る取り組みをご支援することで、お客さまと共に持続可能な地域社会の実現を目指してまいります。

記

1. 「へきしんＳＬＬ」について

本商品は、お客さまがサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（ＳＰＴｓ）として設定した CO2 排出量削減率に関する挑戦目標の達成状況と融資条件が連動し、目標達成時には金利の引き下げを行う融資商品です。

信金中央金庫の組成サポートを活用し、当金庫が策定した本フレームワークは、国際的な原則やガイドラインに適合していることを、株式会社格付投資情報センター（Ｒ＆Ｉ）より第三者評価を受けております。

2. 契約締結先

会 社 名：株式会社鈴木鉄筋
所 在 地：西尾市市子町下川田 37 番地
代 表 者：鈴木 和也
事業内容：鉄骨、鉄筋工事業

3. 契約内容

実 行 日：2025 年 9 月 30 日
期 間：7 年
融資金額：非公表

以 上

株式会社鈴木鉄筋 サステナビリティ・リンク・ローン概要

【株式会社鈴木鉄筋の概要】

株式会社鈴木鉄筋

代表取締役 鈴木和也

<https://suzuki-tekkin.com>

- ・株式会社鈴木鉄筋(以下:当社)は平成22年創業、平成26年10月に法人設立した住宅基礎工事向け鉄筋加工組立企業。
- ・「長く住まう家のために高品質な鉄筋加工・組立を。」を企業理念に掲げ、住宅の见えない部分だからこそ丹精を込めて、正確で美しい仕上がりの実現に努めている。

<当社の事業について>

施工計画の立案

お客さまよりいただいた予算、施工イメージを基に、当社担当者の豊富な知識と経験を活かし、鉄筋コンクリートの構造計算基準に則った正確で緻密な設計を行います。

鉄筋加工

図面を基にミリ単位の切断、曲げ等を行います。見えない部分だからこそ丹精を込めて、一本一本丁寧な作業を行うことで、正確で美しく、高品質な仕上がりを実現します。余った材料はリサイクルすることで、環境に配慮しています。

鉄筋組立

建築主様の想いの詰まった建物を支える重要な工程です。迅速かつ効率の良い仕事で工期を厳守します。場所に応じて最適な人員配置、施工方法で組立てを行い、安心・快適な住まいを支えています。



<当社のサステナビリティ>

- ・令和 6 年 8 月に碧海信用金庫 S D G s 寄贈型私募債「パートナーブリッジ」の手数料の一部を活用し、当社代表者の母校である西尾市立吉良中学校にポータブルスピーカーを寄贈するなど、地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

<令和 6 年 8 月 27 日（火）寄贈品贈呈式>



<私募債発行記念盾>



- ・環境問題対応にも力を入れており、社用車のハイブリッド化を進めている。今後、電力使用量管理、および LED 化を進めていく。
- ・持続可能な取組を進めることで地域の雇用を創出し、サステナブルな地域実現に貢献する。
- ・今回のへきしん SLL をきっかけに、脱炭素経営に関する地域・業界のリーディングカンパニーとなり、先進的な取組を牽引し、持続可能な地域社会の実現に貢献していく。

【サステナビリティ・リンク・ローンのサマリ】

- ・設定したK P I は当社における C O 2 排出量（Scope1、Scope2）の削減率。
- ・設定したS P T s は2024年9月30日（2023年度）を基準日とする対比により、2032年9月30日（2031年度）に C O 2 排出量の削減率22.4%を達成する。
- ・基準日以降、毎年次に C O 2 排出量の削減率を公表し、初回判定は2026年9月30日（2025年度）に行う。

SPTs の目標値					
基準日	2024/9/30	基準日時点排出量（単位：t-CO2）			10.05
基準日以降各年次	2026/9/30	2027/9/30	2028/9/30	2029/9/30	2030/9/30
基準日比削減率	5.60%	8.40%	11.20%	14.00%	16.80%
基準日以降各年次	2031/9/30	2032/9/30			
基準日比削減率	19.60%	22.40%			

【S P T s の野心性】

- ・当社は Scope1、Scope2 削減において、2030 年度までの国内目標を上回る水準の C O 2 排出量の削減計画を策定している。
- ・地域の同業他社等への広がり可能な取り組みであり、地域の持続可能性を向上させることが期待される。

【S P T s 達成手段】

- ・Scope1 については、環境負荷の低減やコスト削減を図るため、社用車の EV 化を検討していく。
- ・Scope2 については工場内の電気使用量の管理・削減を進める。具体的には毎月の C O 2 排出量の算定や LED 化を進める。
- ・Scope3 についても、将来的には算定・削減を検討していく。

【S P T s の妥当性】

- ・当社から開示を受けた各種資料のほか、当社との対話による S P T s の妥当性について検証した結果、当社の計画はへきしん S L L の C O 2 排出量削減率の基準を満たすものと判断できる。

以 上